

平成22年度

帯広畜産大学大学院畜産学研究科
畜産衛生学専攻（博士後期課程）
学生募集要項（10月入学）

（一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜）

APPLICATION FOR ADMISSION TO
THE DOCTORAL PROGRAM
ANIMAL AND FOOD HYGIENE MAJOR
GRADUATE SCHOOL OF AGRICULTURE
AND VETERINARY MEDICINE
OBIHIRO UNIVERSITY
Starting in October, 2010

（General Admission, Special Selection for Mature Applicants,
Special Selection for International Students）

目 次

1 募 集 人 員	1
2 出 願 資 格	1
3 出 願 手 続	4
4 入学者選抜方法	8
5 学力検査実施科目（一般選抜のみ）	8
6 試験期日及び試験場	8
7 障害等のある志願者との事前相談	9
8 合 格 発 表	9
9 入 学 手 続	9
10 入 学 式	9
11 授 業 開 始	9
12 個人情報の取扱いについて	9
◎ 帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産衛生学専攻（博士後期課程）案内	10

1 募 集 人 員

専 攻 名	コ ー ス 名	募 集 人 員		
		一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜	外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜
畜産衛生学専攻	動物医科学コース 食品衛生学コース 環境衛生学コース	若 干 人	若 干 人	若 干 人

2 出 願 資 格

(1) 一般選抜（外国人留学生含む）

次の①～⑥のいずれかに該当する者

- ① 修士の学位又は専門職学位を有する者若しくは平成22年9月までにこれらの課程を修了見込みの者
- ② 外国において修士の学位又は専門職学位（学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。）に相当する学位を授与された者及び平成22年9月までに授与される見込みの者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成22年9月までに授与される見込みの者
- ④ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成22年9月までに授与される見込みの者
- ⑤ 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
 - i 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - ii 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- ⑥ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの（6年制課程の大学を卒業した者又は平成22年9月卒業見込みの者を含む。）

注1. ⑤, ⑥で出願する者は、3頁「出願資格の認定」を参照してください。

(2) 社会人特別選抜（外国人留学生含む）

次の①に該当し、かつ i ～ vi のいずれかに該当する者

- ① 畜産学あるいは獣医学の基盤を有し、食品あるいは畜産衛生に密着した活動を行ってきた者で、平成22年9月までに、2年以上社会人としての経験のある者
- i 平成20年9月以前に修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - ii 平成20年9月以前に外国において修士の学位又は専門職学位（学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。）に相当する学位を授与された者
 - iii 平成20年9月以前に外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - iv 平成20年9月以前に我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - v 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）で26歳に達した者
 - ア 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - イ 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - vi 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、26歳に達したもの（6年制課程の大学を卒業した者を含む。）

注1. v, viで出願する者は、3頁「出願資格の認定」を参照してください。

(3) 外国人留学生特別選抜

次の①～③のすべてに該当し、かつ i～iv のいずれかに該当する者

- ① 日本の国籍を有しない者で、原則として、外国に在住している者
- ② 食品あるいは畜産衛生に関連する研究機関、教育機関、行政機関等での勤務経験を、平成22年9月までに2年以上有する者
- ③ TOEFL テスト（ペーパー版、又はインターネット版）を出願時において2年以内に受けている者（TOEFL-ITP（団体向け TOEFL テストプログラム）は認められません。）
 - i 修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - ii 外国において修士の学位又は専門職学位（学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。）に相当する学位を授与された者
 - iii 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）で26歳に達した者
 - ア 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - イ 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - iv 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、26歳に達したもの（6年制課程の大学を卒業した者を含む。）

注1. iii, ivで出願する者は、下記(4)「出願資格の認定」を参照してください。

奨学金（外国人留学生特別選抜のみ）

入学者には、月額8万円の奨学金を支給します。ただし、外国政府あるいは政府関係団体又は他の奨学金等の受給者は、対象としません。支給は、3年間を限度とし、1年後の成績等の総合評価によっては支給を停止する場合があります。

入学金・授業料免除について（外国人留学生特別選抜のみ）

入学者は、入学金及び各学期の授業料を免除します。ただし、政府等が入学金・授業料相当額を負担する場合は、免除の対象としません。授業料免除は、3年間を限度とし、1年後の成績等の総合評価によっては免除を取り消す場合があります。

(4) 出願資格の認定

下記の提出書類を整え、期限までに提出してください。

- ・一般選抜・社会人特別選抜の出願者は、平成22年6月30日（水）まで
- ・外国人留学生特別選抜の出願者は、平成22年5月31日（月）まで

なお、郵送の場合は必ず速達書留としてください。

提出書類	・入学資格認定申請書（本学が定める様式） ・最終学歴の卒業（修了）証明書 ・成績証明書（履修状況を証明する書類） ・研究歴証明書（研究期間、研究内容は必ず記載） ・研究成果資料
提出先	帯広畜産大学 教育研究協力部入試課入学試験係 〒080-8555 帯広市稲田町西2線11番地

3 出 願 手 続

(1) 出 願 書 類 等

① 出 願 書 類 (一般選抜・社会人特別選抜)

出 願 書 類 等	一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜	摘 要
1 入 学 願 書 受 験 票 票 写 真 票	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ *印欄以外の所定の欄はすべて記入してください。 ・ 写真 (縦 4 cm 横 3 cm) は, 出願前 3 か月以内に撮影した上半身・無帽・正面向きのもので, 裏面に志望専攻名・氏名を記入の上, 写真票の所定の欄にはってください (受験時に眼鏡を使用する者は, 必ず眼鏡を着用して撮影したものにしてください)。
2 志 願 理 由 書	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院を志願する理由を本学所定の様式 1 枚に記入してください。
3 修了証明書又は 修了見込証明書	○	○	
4 成 績 証 明 書	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厳封したものを提出してください。(出身大学及び出身大学院)
5 外国人登録原票 記載事項証明書	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人登録を済ませている者については, 在留資格, 在留期間が記載されているものを提出してください。
6 あ て 名 票 (合格通知書送付用)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学所定の用紙に郵便番号・住所・氏名を明記したものを提出してください。
7 受 験 票 送 付 用 封 筒	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学所定の封筒 (小) に郵便番号・住所・氏名を明記し 350 円分の切手をはったものを提出してください (入学試験係に受験票を直接取りに来る場合は切手をはる必要はありません)。
8 修 士 論 文 の 要 旨	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文の内容の要旨又は現在進行中のものは途中経過の要旨 (2,000 ~ 4,000 字程度) を提出して下さい。このほか, 学力を表す論文, 報告書等の資料を出願書類に添えて提出してもかまいません。
9 受 験 承 諾 書		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 官公庁・企業等に在職している者は所属長または代表者が作成し押印したものを提出してください。

注 1 : 日本国籍を有しない者の出願書類については, 別に指示しますので出願の前に, あらかじめ入学試験係まで申し出てください。

注 2 : 本学研究科修士課程及び博士前期課程修了 (見込み) 者は, 3 については提出を要しません。

注 3 : 出願に際しては, 希望する教育研究分野の教員にあらかじめ連絡をとること。

② 出願書類（外国人留学生特別選抜）

出願書類等		摘 要
1	入学願書 受験票 写真票	<ul style="list-style-type: none"> ・*印欄以外の所定の欄はすべて記入してください。 ・写真（縦4cm横3cm）は、出願前3か月以内に撮影した上半身・無帽・正面向きのもので、裏面に志望専攻名・氏名を記入の上、写真票の所定の欄にはってください。
2	志願理由書	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院を志願する理由，研究計画及び将来どのように大学院で学んだことを生かしたいか，経歴を含めてA4版用紙3枚（任意様式）にまとめること。
3	修了証明書	
4	成績証明書	<ul style="list-style-type: none"> ・厳封したものを提出してください（出身大学及び出身大学院）。
5	あて名票 （合格通知書送付用）	<ul style="list-style-type: none"> ・本学所定の用紙に郵便番号・住所・氏名を明記したものを提出してください。
6	受験票送付用封筒	<ul style="list-style-type: none"> ・本学所定の封筒（小）に郵便番号・住所・氏名を明記したものを提出してください。
7	推薦書	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦書 各1部（任意様式） ① 出身大学の長等（人物，成績，課外活動，英語力，その他） ② 行政機関等勤務先の長等（人物，業績，勤務状況，英語力，その他） ③ 上記以外の者（人物，成績又は業績，英語力，その他）
8	業績報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文がある場合はその概要，現在の業務内容の説明，その他特筆できる事項についてA4版用紙2枚（任意様式）にまとめること。
9	小論文	<ul style="list-style-type: none"> ・大学から送付するテーマに関する小論文をA4版用紙2枚（任意様式）に記入してください。
10	TOEFLの 成績通知書	<ul style="list-style-type: none"> ・TOEFL（ペーパー版，又はインターネット版）スコア票（Examinee's Score Record）原本を提出してください。 原本は，本学入試課でコピー後，返却します。 なお，TOEFL スコアは，TOEFL テストを書類提出日からさかのぼって2年以内に受験したものを有効とします。 また，TOEFL-ITP（団体向けTOEFL テストプログラム）は，認めません。

注1：2，7，8及び9については，英文でタイピングしたものを提出してください。

注2：出願に際しては，希望する教育研究分野の教員にあらかじめ連絡をとること。

③ 検 定 料

30,000円

1) 一般選抜・社会人特別選抜【国内出願】（日本国内で送金する場合）

本学所定の払込取扱票により、検定料30,000円を払込期間内に最寄りの郵便局・ゆうちょ銀行から払い込んでください。

国費外国人留学生は、検定料を必要としませんが、在学する大学発行の「国費外国人留学生証明書」（写しでも良い）を提出してください。

払い込み後、「振替払込受付証明書（お客様用）」（日附印が押印されたもの）を出願書類の所定の場所にはって提出してください。

なお、郵便局・ゆうちょ銀行の窓口取扱いは通常平日は16時まで、土・日曜日及び祝日は休業ですのでご注意ください。

また、平成22年9月に本学大学院修士課程及び博士前期課程修了見込みの者は、検定料が不要なので、必ずその旨申し出ること。

検定料払込期間 : 平成22年7月6日（火）から平成22年7月23日（金）

2) 外国人留学生特別選抜（外国在住者）【国外出願】（日本国外から送金する場合）

金融機関で検定料：額面30,000円（日本円）を次の要領に従って海外の金融機関より送金してください。その際、必ず外国送金依頼書のコピーを願書と共に提出してください。

- ・ 電信送金
- ・ 振込方法 : 通知払
- ・ 支払銀行手数料 : 依頼人負担
- ・ 送金金額 : 30,000円
- ・ 次の銀行口座に送金してください。

受取銀行：信用中央金庫（金融機関コード：ZENBJPJT）

受取銀行住所：東京都新宿区市谷本村町9-1

取引口座：帯広信用金庫稲田支店（0340900）

受取人名：帯広畜産大学

受取人住所：080-8555 北海道帯広市稲田町西2-11

検定料払込期間 : 平成22年6月11日（金）から平成22年6月30日（水）

※支払銀行手数料を含む全ての手数料は依頼人が負担してください。

④ 出願の留意事項

1) 受理した検定料は、次の場合を除き返還することができません。

検定料を払い込んだが帯広畜産大学に出願しなかった（出願書類を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合又は検定料を誤って二重に払い込んだ場合には、払い込んだ者の申し出により、当該検定料相当額を返還します。

返還の申し出は、速やかに行ってください。

※ 返還に関する問い合わせ先 帯広畜産大学 入試課入学試験係 TEL 0155-49-5321

2) 検定料が払い込まれていない場合や「振替払込受付証明書」に郵便局・ゆうちょ銀行の日附印が押印されていない場合は出願を受理できません。

(2) 出 願 期 間

① 一般選抜・社会人特別選抜

平成22年7月16日(金)から平成22年7月23日(金)まで（郵送の場合も**7月23日(金)必着**とします。）

② 外国人留学生特別選抜

平成22年6月23日(水)から平成22年6月30日(水)まで（郵送の場合も**6月30日(水)必着**とします。）

(3) 出 願 方 法

出願書類は、一括して本学所定の封筒（大）若しくは角型2号の封筒に入れ、持参又は郵送してください。

① 持参の場合

受付時間は、8時30分から17時00分までとします。ただし、土・日曜日及び祝日を除きます。

② 郵送の場合

1) 一般選抜・社会人特別選抜

必ず「**速達書留**」扱いにし、**平成22年7月23日(金)17時00分必着**とします。

なお、出願期限後に到着した出願書類等は受理しないので、郵便事情等を考慮して余裕を持って発送してください。

2) 外国人留学生特別選抜（外国在住者）

必ず「**EMS**」若しくは「**書留**」の**エアメール便**扱いにし、**平成22年6月30日(水)17時00分必着**とします。

なお、出願期限後に到着した出願書類等は受理しないので、郵便事情等を考慮して余裕を持って発送してください。

(4) 出願書類等の提出先

14 ページに記載してあります。

なお、出願書類等は、返還することができません。

4 入学者選抜方法

(1) 一般選抜

学力検査（小論文）、面接、志願理由書及び成績証明書の内容を総合して行います。

(2) 社会人特別選抜

面接、志願理由書及び成績証明書の内容を総合して行います。

(3) 外国人留学生特別選抜

志願理由書、成績証明書、推薦書、業績報告書、小論文及び TOEFL の成績通知書の内容を総合して行います。（書類審査のみ）

注）面接には、これまでの研究又は業績内容についての15分程度のプレゼンテーションを含みます。

試験当日のプレゼンテーションは、本学で用意するパソコン又はOHPを使っていただきますので、8月23日(月)までにプレゼンテーションのデータを入学試験係まで持参又は郵送してください。

5 学力検査実施科目（一般選抜のみ）

コース名	教育研究分野名	試験科目
動物医科学	家畜生産衛生学	小論文
	人畜共通原虫病学	
食品衛生学	食肉乳衛生学	
	衛生経済学	
	病原微生物学	
環境衛生学	衛生動物学	
	循環型畜産科学	

6 試験期日及び試験場

(1) 一般選抜

実施期日	科目等	時間	試験場
平成22年8月25日(水)	小論文	9:30～11:30	帯広畜産大学
	面接	13:00～	

(2) 社会人特別選抜

実施期日	科目等	時間	試験場
平成22年8月25日(水)	面接	13:00～	帯広畜産大学

(3) 外国人留学生特別選抜

書類審査日・・・平成22年7月2日(金)

※ 平成22年8月24日(火)10時までに試験場案内図を受験者入口（総合研究棟I号館玄関）に掲示しますが、試験室内に入ることはできません。

7 障害等のある志願者との事前相談

本学に入学を志願する者で、障害等のある者については、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願前に本学と相談を行ってください（日常生活において、ごく普通に使用されている補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も試験場設定や他の特別な配慮との関係から必ず事前に相談してください。）。

- (1) 相談の期限
一般選抜・社会人特別選抜・・・平成22年6月30日(水)
外国人留学生特別選抜・・・・平成22年5月31日(月)
- (2) 問い合わせ先
27ページに記載してあります。

8 合格発表

- (1) 一般選抜・社会人特別選抜・・・平成22年9月3日(金)10時(予定)
外国人留学生特別選抜・・・・平成22年7月16日(金)10時(予定)
本学総合研究棟I号館玄関及びホームページに合格者の受験番号を公表します。(ホームページアドレスは14ページ参照)
- (2) 合格者には、合格通知書及び入学手続きに必要な書類を送付します。
- (3) 電話等による可否に関する問い合わせには、応じられません。

9 入学手続

- (1) 入学手続期間 平成22年9月3日(金)から平成22年9月24日(金)まで
- (2) 入 学 料 282,000円
注 平成22年9月に本学大学院修士課程及び博士前期課程を修了し、引き続き本課程に進学する者は不要です。
- (3) 授 業 料 後期分 267,900円(年額 535,800円)
注 上記の納付金は現行額であり、入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金が適用されます。
- (4) その他の経費
学生教育研究災害傷害保険料(正課・課外活動中における不慮の災害事故による学生の傷害に対する救済措置) 4,070円

10 入学式

日 時 …… 平成22年10月1日(金)

11 授業開始

平成22年10月4日(月)より

12 個人情報の取扱いについて

- (1) 本学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人帯広畜産大学保有個人情報管理規程」に基づき、保護に万全を期しています。
- (2) 出願時にお知らせいただいた氏名、住所等の個人情報については、入学者選抜、合格発表、入学手続、入学者選抜方法等における調査・研究及びこれらに付随する業務を行うために利用します。
- (3) 入学者選抜で得られた試験成績の個人情報は、入学者選抜及び入学者選抜方法等における調査・研究を行うために利用します。
- (4) 上記(2)及び(3)の個人情報のうち、合格者のみ、入学後の教務関係(修学指導等)、学生支援関係(奨学金申請・授業料免除申請等)に関する業務及びこれらに付随する業務を行うために利用します。

帯広畜産大学大学院畜産学研究科
畜産衛生学専攻（博士後期課程）案内

アドミッションポリシー（入学者受入方針）

畜産衛生学専攻博士後期課程は、人間と自然が共生する社会において「食の安全確保」に基本をおいた農畜産物生産から食品衛生及び環境保全に至る一連の教育研究を実践し、国際的に活躍できる研究者、大学教員、高度専門職業人の養成を目指しています。このような理念・目標のもとに、次のような人材を国内外に求めています。

1. 「食の安全確保」に関する諸問題に深い関心を持っている人
2. 国際感覚を身につけ、国際交流の舞台で活躍したいと思っている人
3. 多様な実務経験を有する社会人で、ブラッシュアップを期待する人
4. 職業現場で直面する諸問題について理解を深め、問題解決能力を高めた
いとと思っている人

1 専攻の内容

(1) 動物医科学コース

畜産生産現場における健康で丈夫な家畜を飼養・繁殖管理して生産疾病の発生を抑え、結果として経済効率を改善し、合わせて健康な家畜の潜在能力を生理的な範囲内で最大限に引き出すための技術開発や理論に関する教育を行います。さらに、動物の感染症の原因となる寄生虫、原虫などの寄生体と宿主の相互作用を、双方の個体群から分子に至る様々なレベルで解明し、これに基づいた人畜共通原虫病の防御を目的とした治療・診断法、動物の健康及び疾病予防問題と栄養素の分子機能との関係について、動物医科学に関する総合的な教育を行います。

ア) 家畜生産衛生学分野

効率優先目的の繁殖技術や飼養技術開発を、健康で元気な家畜で生理的なバランスを保って進めていけるように、家畜の生産獣医療と生理学的視点をもって、特に乳肉牛の飼養繁殖管理に関する基礎的な理論と実験実習を中心とした実践的考察を行い、畜産生産現場における衛生に主眼を置いた教育・研究を行います。

指導教員

宮本明夫 教授

現代の高泌乳牛が抱える特有の健康と衛生の問題を取り上げ、生理学的な解析に基づいた問題の予防法について、基礎的な研究成果を利用した飼養管理システムの構築を目指した指導を行います。また、健全な乳牛の生理学的なバランスを考慮して生殖機能を最大限に利用する技術開発を目指した指導も行います。

口 田 圭 吾 教授

我が国特有の品種である和牛を主なターゲットとし、生産から販売までの情報管理システムと、枝肉断面の画像解析を利用した新しい肉質評価システム、経済的に重要な肉質形質の育種戦略手法の構築を目指した指導を行います。特に、画像解析を利用した肉質評価システムの生産現場への導入および産業界との共同研究体制を強く意識した研究指導を行います。

清 水 隆 准教授

分娩後に引き起こされる高泌乳牛の周産期病を取り上げ、酪農を中心に畜産における問題点、疾病の発症機序と感染起因菌や感染経路について、現状を理解して対応できる能力を育てることを目指して指導します。また、関連した最新の研究成果を活用して生体の繁殖障害の機構の病態生理的な解明を進め、家畜生産と家畜衛生への応用を目指した研究指導を行ないます。

イ) 人畜共通原虫学分野

畜産食品の生産性向上を目的とした原虫病及び寄生虫性疾患に焦点を当て、寄生体と宿主の相互作用を双方の個体群から分子に至る様々なレベルで解明し、これに基づいた治療・診断法の開発に関する教育・研究を行います。

指導教員

五十嵐 郁 男 教授

世界的規模で家畜や人に多くの経済的、健康被害を与えている人畜共通原虫病の診断、予防を目的として、特にバベシア原虫を中心として、宿主細胞への感染機構、関連分子の解明を推進し、新規の診断法および分子疫学、薬剤開発に関する研究へと発展させます。

井 上 昇 准教授

アフリカを中心として家畜や、人に多くの経済的、健康被害を与えている人畜共通原虫病の診断、予防を目的として、特にアフリカトリパノソーマ原虫を中心として、宿主およびベクター細胞への感染機構、増殖関連分子の解明を推進し、新規の診断法及び予防法の開発に関する研究へと発展させます。

(2) 食品衛生学コース

安全で優れた畜産食品の安定的な供給と効率化を図るため、農場から食卓までの過程における有害因子について総合的な教育を行います。具体的には、細菌およびウイルスを中心とした病原微生物の治療・予防法、農場・食品加工上の衛生管理システムの経営的評価とマネジメント、国際貿易における動植物検疫制度の経済評価と制度設計、食品の機能性の追求や病原微生物の発症機構の解明による畜産食品のリスク評価手法、食品に関連する健康障害因子の分析などの食品衛生に関する総合的な教育・研究を行います。

ア) 食肉乳衛生学分野

生物科学の最先端の知見と手法を駆使して、人類の穏やかな生活に寄与する安全で優れた畜産食品を安定的に供給し、さらに効率的活用を図るために、原材料から加工、製品の摂取に至るまでの全ての工程で危害を及ぼす可能性のある微生物、人工化合物等の分析、制御、管理方法及び生体応答の実際を総合的に教育・研究します。

指導教員

関 川 三 男 教授

安全な食肉及び食肉製品の生産方式及びその評価方法について、主にタンパク質化学及び有用細菌の視点から研究指導します。特に食肉の生産に付随するSRM等の家畜由来する危害の制御や評価方法、有用細菌による食肉加工製品の有害微生物の制御法、食肉加工製品の物性変化と安全性あるいは官能特性との関係等について指導します。

浦 島 匡 教授

生乳を汚染する病原性細菌の生産する毒素蛋白質を網羅的に解析する方法についての研究指導を行います。また、感染防御作用をもつ生乳中の蛋白質の検索方法の研究指導を行います。細菌毒素がヒトに感染する際に付着するヒト細胞表層の糖鎖を解析する方法について、研究指導を行います。

イ) 衛生経済学分野

食品の安全性の確保及び食料生産向上のための、食品衛生の経済理論とその制度設計理論、農場・食品加工上の衛生管理システムの経営的評価とマネジメント、国際貿易体制下における動植物検疫制度の経済評価と制度設計、及び食品の統計的リスク分析手法に関する教育・研究を行います。

指導教員

耕 野 拓 一 准教授

畜産衛生管理は、家畜生産のみならず人畜共通感染症など、人間の健康問題も引き起こすため、今後さらに高度な衛生管理が求められることから、畜産経営面からの衛生管理と地域的、国際的防疫システムについて経済理論を背景に検討を行い、家畜生産の衛生管理の高度化に資する研究の指導を行います。

ウ) 病原微生物学分野

家畜衛生の向上と食の安全性の確保を目的とし、家畜関連の細菌性・ウイルス性感染症からヒトの健康被害の原因となる食品媒介感染症や人畜共通感染症の診断・治療・予防法の開発及びそれら感染症の発症機構の細胞レベルでの解明に関する教育・研究を行います。さらに微生物学的なリスク分析の科学的手法についても教育・研究します。

指導教員

牧 野 壮 一 教授

現代社会がかかえている新興・再興感染症や日和見感染症などの問題に対して、細菌性人畜共通感染症に焦点を絞り、それらの感染成立と宿主応答の分子機構の解明を行い、その基礎研究成果を細菌感染症の予防・治療法の開発や食品・畜産分野への応用を目指して指導します。

今 井 邦 俊 教授

現代社会がかかえている新興・再興感染症や日和見感染症などの問題に対して、ウイルス性人畜共通感染症に焦点を絞り、それらの感染成立と宿主応答の分子機構の解明を行い、その基礎研究成果をウイルス感染症の予防・治療法の開発や食品・畜産分野への応用を目指して指導します。

川 本 恵 子 准教授

現代社会がかかえている新興・再興感染症や日和見感染症などの問題に対し、細菌性人畜共通感染症に焦点を絞り、それらの感染成立と宿主応答の分子機構の解明を行い、その研究成果を細菌感染症の予防・治療法の開発や食品・畜産分野への応用を目指して指導します。また、社会問題ともなっている食物アレルギーなどアレルギー疾患の研究も行い、得られた成果の食品・畜産分野への応用を目指して指導します。

(3) 環境衛生学コース

水系汚染，地球温暖化ガスの放散などエネルギー多投入型家畜生産システムを改善し，安全な食品を確保するために，効率的な循環型農畜生産システムの構築やダニなどの衛生動物による感染症防除の確立など，国際的な感染症疫学調査からバイオマスの利活用までの環境衛生に関する総合的な教育を行います。

ア) 衛生動物学分野

国際社会で大きな社会問題となっている，動物に外部寄生をしたり，病原体を媒介する昆虫，ダニ，ネズミなどの衛生動物による新興・再興感染症の防除に関し，衛生動物のゲノムレベルでの教育・研究を行います。

指導教員

玄 学 南 教授

近年，地球温暖化や国際交易増大などの国際社会の変容に伴って拡大増加している昆虫やダニなどの新興・再興の節足動物媒介性人畜共通感染症の分子疫学や生態の分子基盤の解明を目的として，主として人畜体内における病原体の動態解明，とりわけ病原体分子と人畜宿主分子のクロストーク解明を主とした研究を展開し，その研究成果を診断法やワクチン開発につなげます。

嘉 糠 洋 陸 教授

マラリア・西ナイル熱・日本脳炎・フィラリアなどの感染症の原因となる寄生虫・ウイルス・細菌の伝播には節足動物が必須です。家畜に被害をもたらすこれらの感染症制圧を念頭に、病原体の節足動物ステージでのコントロールを目指し，これらの節足動物に特有の生命現象（相互作用・免疫・形態・行動・共生等）に着目し解析しています。

西 川 義 文 准教授

食の安全を確保するために，水や食品由来病原体の感染症対策とそれを媒介する衛生動物をコントロールする方法の確立を目的として，病原体検出システムの開発や人畜内における免疫生理反応の解明を主とした研究を展開し，病原体および衛生動物に対するコントロールや治療法の開発を目指します。

イ) 循環型畜産科学分野

環境に大きな負荷を与える結果となっているエネルギー多投入型家畜生産システムの改善について，エネルギー循環（炭素）と物質循環（窒素）を基盤とする農畜生産システムにおける循環系の確立に関する教育・研究を行います。

指導教員

高 橋 潤 一 教授

畜産におけるエネルギー及び窒素循環の構築を目的として，プロバイオティクス，動物・植物由来のプレバイオティクス等を応用する安全なルーメンマニピュレーションによる反芻家畜のルーメンメタン生成の制御法及びエネルギー・タンパク質代謝改善法の開発並びに新飼料資源の開発を目指して研究指導します。

梅 津 一 孝 教授

畜産におけるエネルギー及び窒素循環の構築を目的として，バイオガスプラントによる家畜排泄物，食品・畜産有機性廃棄物からのバイオガスエネルギー創出に関わる発酵要因解析，発酵制御法開発，エネルギーの高度化変換法の開発，発酵消化液窒素化合物の利用法開発を目指して研究指導します。

西 田 武 弘 准教授

畜産における持続可能なエネルギー及び窒素循環の構築を目的として，食品製造残渣の飼料資源としての再利用のための消化試験や呼吸試験による栄養価評価，安全な新規食品添加物等の活用による，生産性の低下を伴わない反芻家畜のルーメンメタン制御方法及びエネルギー・タンパク質代謝改善法の開発を目指して研究指導します。

2 修業年限及び学位の授与

(1) 修業年限

博士後期課程の標準修業年限は3年です。

(2) 学位

博士後期課程修了者には、博士の学位を授与します。授与する学位の名称は「博士（畜産衛生学）」とし、英訳名称は、「Ph.D.(DAFH):Doctor of Animal and Food Hygiene」です。

3 長期履修制度について

長期履修制度は、職業を有するなどの事情により、標準年限を越えた一定の期間（6年以内）で計画的に教育課程を履修し課程を修了したい方に、標準修業年限の学費で、その長期の計画的な履修を認めるものです。

長期履修を希望する方は、あらかじめ指導担当予定教員と相談の上、原則として入学手続き時に申請書を提出してください。

◎ 出願書類の提出・問い合わせ先等

1 問い合わせ方法

電話又は郵便を利用してください。郵便による場合は、郵便番号・住所・氏名を明記し、所要額分の切手をはった返信用封筒を同封してください。

2 提出・問い合わせ先

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11番地

帯広畜産大学教育研究協力部入試課入学試験係

☎ 0155-49-5321（入学試験係直通）（月～金 8:30～17:15）

帯広畜産大学ホームページのご案内

ホームページには、入試情報、各専攻の紹介、大学の概要等が載っています。

アドレスは、次のとおりです。 < <http://www.obihiro.ac.jp> >